

日 時	令和2年03月25日(水) 10:00~12:00
出席者	資料「令和元年度 第2回中井町総合計画審議会 座席表」参照
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) まちづくりアンケート・まちづくりミーティングの結果概要</p> <p>(2) 後期基本計画たたき台について</p> <p>(3) その他</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
議 事	◎会長、○委員、●事務局
事務局	<p>1 開会</p> <p>企画課事務局にて開会</p>
会 長	<p>2 会長の挨拶</p> <p>おはようございます。新型コロナウイルス感染症で大変な状況が続いているが、私が勤める大学では5月連休明けまで休校となった。連休明けに通常通りに授業が再開されるかはわからないので、学生が心配になってきているところだ。一方で、不特定多数が参加するイベントと違い、行政の審議会、委員会は中止にならないので、換気をするなど対策をとるように事務局へお願いしている。本日もよろしくお願ひしたい。</p>
事務局	<p>欠席委員2名、過半数の出席を満たすので会議は成立するものとし議事を進行</p> <p>配布資料の確認</p>
事務局	<p>3 協議事項</p> <p>(1) まちづくりアンケート・まちづくりミーティングの結果概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1-1に基づき説明 ・資料1-2に基づき説明
会 長	<p>【意見】</p> <p>◎今日の審議のメインは後期基本計画のたたき台についてなので、まちづくりアンケート、まちづくりミーティングについては深掘することなく10分ほど意見を頂戴したい。中井町の現状、立ち位置が見えてきて、方向づけはこのアンケートから十分出てきている。地区による温度差、カラーは違うが、地区ごとの重点項目が見えてきている。</p>
委 員	<p>○町民の主要施策に対する満足度・重要度を分析したCSグラフについて、定住を支えるまちづくりは重要度が高いにもかかわらず満足度が低い。定住意向が比較的高いにもかかわらず満足度が低いというのはどのように分析されているのか。</p>
事務局	<p>●定住意向も含めて前回からそれほど大きな変化はないが、前回アンケートでは、特に交通の分野と買物の利便性の2つが、重要度は高いが満足度が低いという傾向が出ていたが、今回は井ノ口地区に商業施設ができたこともあり、買物の利便性では満足度が若干改善されている。交通は重要度が高く満足度が低いことがより鮮明に出てきていると考えている。</p>
委 員	<p>○地球温暖化対策と資源循環型社会の形成は密接にリンクしていると思うが、アンケートの回答で</p>

	<p>は重要度、満足度が一致していない。別個のものとして解釈している傾向があると思う。13 頁の 60 歳代の傾向をみると、2つを同義語として捉え、重要度と満足度が一致しているが、そのほかの年代、地区、特に若い年代ではばらばらに解釈していると考えられる。町民の理解、啓蒙活動的なものが必要と思うが、今後の対応についての考えは。</p>
事務局	<p>●地球温暖化等については昨今の台風、環境についてはプラスチックごみの取り組み、報道等もされている中で、町民の認識も強まっているのは事実であり、ある程度今回の調査結果に反映されていると認識している。</p>
委員	<p>○資源というとプラスチックごみやエネルギー、全部ひっくるめると地球温暖化と関連してくるので、資源に対する考え方を包括的に捉えたほうがいいと思う。町民に対する啓蒙活動が今後必要になってくる。</p>
事務局	<p>(2) 後期基本計画たたき台について ・資料2に基づき説明</p>
会長	<p>【意見】 ◎1・2章、3章、4・5章、6・7章に分け、各パート10分から15分で議論をさせていただきたい。まず、1・2章の1頁から15頁。</p>
委員	<p>○全体的に言えることだが、人材育成と何々を支援しますという言葉が前期と同じように使われている。超高齢化で、行政を支える町民、自治会活動が大きく変化している中、単なる人材育成、何々に対する支援では工夫がないように感じられる。また、国が示している関係人口というものがよく分からない。</p>
事務局	<p>●関係人口とは、地域の様々な活動に関わっていただくという、観光等の交流人口以上、定住人口未満という定義づけがされているものである。</p>
委員	<p>○要は、町のイベント等に参加してくれる町内外の人、あるいはそれに関心を持っていたり支援をしてくれる人を捉えて関係人口という解釈をすればいいのか。</p>
事務局	<p>●そのように解釈していただいてよい。</p>
会長	<p>◎きっちり線は引けないと思う。</p>
事務局	<p>●地方創生を始めたときには、少子高齢化で地方自治体の人口減少に伴い地域の活気が失われていく中、交流人口を増やし、活性化をしていくという目的で、元々は総合戦略から始まった。しかしながら東京の一極集中は変わらず、合計特殊出生率も変わらない中で、新たに国は関係人口を位置づけ、地域の活性化を維持していくためのまちづくり、地域づくりを目指している。交流人口と関係人口の仕分けは説明しづらい部分もあるが、町としても総合計画の中に総合戦略を盛り込むというスタンスもあるので、あえてそこに関係人口を入れた。人材育成については、確かに高齢化で、新たな人材、担い手が育っていないというのも事実だ。今まで以上に町も仕事が多くなるので、ある程度地域の方に協力をお願いする部分も含めての人材育成ということだ。前期と変わらないという指摘もあるが、引き続きやっていく必要があるという考えだ。</p>
委員	<p>○4頁の1-2-2-1、自然生態系の保全・活用で、青字の前期基本計画から修正したところは継続して定期的に確認調査を実施するとあるが、保全・活用については特にアクションがないように感じる。後期基本計画でのアクションは考えているか。</p>
事務局	<p>●生物多様性の調査は、ある程度報告書はできている。町には絶滅危惧種的なもの、また町特有の生態系もあるように聞いている。それをしっかり維持することが町として重要だということころは、中井町の売りという部分もあるが、また全面的に出せるかという課題もある。環境整備、生態系の保全はもちろん大事なところなので、意見として承り、検討させていただく。</p>

委員	○家の裏山の間伐材を伐採して雑木林を整備している。伐採した竹や木材はその場に積み上げておくだけだと思う。これはバイオマスになると思うが、省エネや省資源に活用する構想はないか。
事務局	●神奈川県の水源保全環境税を住民税に上乘し、県内の水の確保のためにやっている事業で、中井町も補助金制度を使って町内の山林の間伐をしている。処分も含めて一定の事業の中で委託しているものなので、間伐材の活用という部分については難しい。
委員	○省資源、省エネ等の循環型社会をつくっていくには総合的に活用していかないといけない。つまり、単発事業だとそれで終わりなので、そこをリンクさせながら総合的な活用を考えていかなければいけないと思う。
会長	◎町として、特色のあることを打ち出しながらPRできるとよいが。
委員	○バイオマスなどを活用しながら、エネルギーの地産地消も言われ始めているので、例えば昼間ためておいた電気を使って中井町の豊富な水を分解して水素をつくる、それをまた資源として活用するというエネルギー循環型社会をつくっていけば、町のクリーンなイメージができていく。
委員	○松沢知事のときに、神奈川県のダムをつくったり、例えば中井町の話をする、雑木も30年、40年伐採はしないのでそういうところが荒れている。漁港などにもものすごく恩恵を与えるし、もっと水を大切に、自然環境を豊かにしたいというので水源環境税がつくられた。今、委員の言うようなところまで考えて計画したわけではない。水源環境にふさわしい森林づくりをしていこうというのが元々の狙いだから、それがさらにできていけばいいが。こういうのをやっているのは神奈川県だけだ。もう10年以上たつが、順番だから、その後が続かない。
委員	○確かに今言われたとおりだと思うが、それをいかに発展させていくか。ましてやこういう世の中の流れになっているので、その流れを町の取り組みに結びつけていきたい。
委員	○鳥獣害対策にもなる。
委員	○確かに資源循環は理想だが難しい。今の事業をそのまま拡げて、続いている事業だから大事にしたい。
委員	○資源循環に結び付けられないことはもったいない。
委員	○もったいないのはわかるが、費用対効果だと思う。それを集めてバイオマスつくると、それ以上の整備費用がかかる。
委員	○世の中がまだそこまで追いついていない。事業として成り立てばいいが。
委員	○総合計画の基本計画だから、これを具体的にどうしようかという次のステップをどのように書き込めるかだと思う。中井町ではボランティアが竹藪を整備し、竹炭をつくっているが、活動が縮小しているようだ。町で支援、育成、PRはできないか。現在は町外の方含めて5、6人でやっている。現代はガスと電気の生活なので、昔はまきを作るために山が必要で、まきを作って燃料にしていたということすらも知らない世代がでてきている。例えばキャンプには炭が必要で、炭は需要があるが、商業ベースに乗せるのは難しい。町の支援で若い人材を育てることも次のステップでは必要だと思う。また、まちづくりアンケート、まちづくりミーティングに参加した住民は、中井町のことが分かったので参加してよかったと言っている。その議論をどうやって実現するか、基本計画からその次のステップの実現計画に向けて、町の使命だと思っている。
会長	◎この審議会です次のステップの話をするには意義があるので、これは議事録にきちんと残るかと思う。
委員	○先日新聞で、町でバイオの発電所をつくるという案が出ているという記事を見て、中井町の水は大丈夫なのかという心配がまずあったのと、その辺の詳細が全然わからないで、どういうものができるのか、どうなっているのかお聞きしたい。そういうものがあるのなら間伐の関係もやってくれるのかなと思う。まず、第一に知りたいのは、そういうバイオができたときに地下水に影響はないのか。影響がないのであればそういう事業もあり得るかと思うが、どうなのか。

事務局	●民間企業がそういう計画をしていることは町も承知しているが、今回の総合計画の中の審議には合わないので、これ以上の町としての回答は控えさせていただきたい。
会長	◎次に、第3章の16頁から24頁まで。
委員	○次のステップに向けてということだが、中井町は非常に児童数も激減していて、小学校は2つ。将来的に学校の設置場所等が次の委員会では議題として上がってくる内容かと思うが、今現在、何か構想はあるのか。あるいは、次のステップでそれを具体的に審議していくのか。一案として、小中一貫教育で小・中学校を1か所にすると、英語教育も前倒しでき、小中の教育の交流もよりスムーズになると思う。そういう将来構想的なものを今ここで話しする必要があるならお願いしたい。
事務局	●町も公共施設の管理計画の中で検討はさせていただいている。確かに児童数も減っている現状はあるが、今は議論に上げる段階ではない。
委員	○町は以前から幼小中の連携した教育の推進を図っており、今もやっていると思う。クラスが減っていることを以前の教育委員が危惧されて、1学級制度ではいろいろな面で難しさがあるから、その辺を改善しなくてはいけないと言われていた。私も将来的にはそういう環境づくりが町の重点施策として取組まれる必要があると思う。こども園ができて5年、当初、幼小の一貫を含めてこども園は教育委員会の所管だったが、2年ほど前から厚労省の所管になった。こんな小さい町でなぜ縦割りのとおりにはやらないか理解できないし、再度そういう点を議論してほしいと思う。もう一点は、5年ほど前に総合教育会議が町長の所管の下につくられた。もっと大胆に町長のほうで計画を着実に実行して欲しい。教育委員会の制度も変わってきたので、それも含めて議論して計画に取組んでほしい。
事務局	●町長から、外国語教育の充実などに対しても議論していただきたいということで、いろいろな形で総合教育会議の中で議論させていただいている。今お話のあった内容も含めて、しっかりと議論していただくことは重要なことだと考えている。
委員	○小中一貫教育を提起させてもらったが、中井町の一つの目玉にもなると思う。それにより、中井町に住んで子育てをしよう、中井町の学校に入れようという人たちの増加も期待される。定住人口の増加等も考えた教育も含めて、中井町の将来像を考えていただきたい。
委員	○24頁3-3-2-2の文化財の保存について、宗教に関することに町が積極的に関与していいの か。具体的にはどのようなことに取組むのか。祭りでは担い手の確保も課題となっている。
会長	◎事務局では施策の対象となる祭りがあるのか。
事務局	●五所八幡宮の例大祭が4月29日に開催されている。地域で持っている山車は町の文化財に登録されており、改修等には補助金も出した。担い手の課題については町でも承知はしているが、具体的にとなると支援は難しい。町外からの担ぎ手等の事例はあるかと思うが、具体的にこの計画の中にそこまでの位置づけを盛り込むというのは難しい。
委員	○祭りは地域だけの閉じたものにするのではなく、オープンにしたほうがいい。地域の中でマニュアルをつくり、外に発信し、外から参加できる仕組みがあればいい。
事務局	●そういう考え方も一つの方法としてはあると思うが、そこまで町として計画の中に書き込むわけにはいかない。
会長	◎宗教的儀式に税金を使うことは憲法違反なのでできないが、浅草の三社祭は一種の宗教行事にもかかわらず、観光イベントになっているため、東京都も台東区もお金を出している。その線引きは、宗教的行事だから全部駄目ではなく、歴史的な価値があり、文化財という方向に軸足があるとか、あるいは観光資源という軸足があるとか、きちんと世間に対して説明がつけば一宗教団体にお金を出しているという話にはならない。例大祭も地域の内向きのお祭りだと税金を使えないが、文化財として保存していくべきだという話になれば、観光というところに話を持って

	<p>いける。そうすると、縦割りではなく、3-3-2-2の文化の継承も観光と結びつけるとか、あるいは交流人口を増やすとか、中井町をPRするとか、そういうところに余波が広がっていけば、最初一つ例を出して、何々などと書き方を変えていくことが可能性としてあると思う。そこは所管する教育委員会と考えていく話になってくると思う。</p>
委員	<p>○各自治会で祭囃子等の保存等は、事務局が言ったように、登録してあるから助成制度とかいろいろなものを考えていいのだが、五所八幡宮の神事の一つなので、それが今両方一緒になってやっている。藤沢は自治会で山車を持っているので、神社の氏子の負担が大きい。</p>
委員	<p>○町の財産をいかに生かすかというのは重要なポイントであるのは承知している。</p>
委員	<p>○なぜ補助金を出すか、以前議会で議論したが、これは難しい。</p>
会長	<p>◎先ほど言ったように、基準をきちんとつくり、だからこうなんだという説明責任が必要である。</p>
委員	<p>○基準がないから同じことを毎年やっている。</p>
会長	<p>◎今私が言ったことが一つの法的解釈なのかと思うので、今後参考にさせていただければと思う。次に、4章、5章、25頁から34頁。</p>
委員	<p>○29頁に、移動困難な高齢者、障害のある方の移動手段である福祉有償運送サービスの利便性向上を図り、外出支援を促進しますとある。確かにわかるが、利用者の範囲は2市8町の県西地域の広域の中でやっているのだから、対象者は難しい。町の交付金で社協が担って継続しているが、利用者はかなり多く、補助金の増額もならず、年末の助け合い運動の一部で補填している。料金も町内500円、町外700円をいただき、利用者には喜んでいただいているが、これをもう少し拡大する意味では、町の助成と、あるいはオンデマンドバスをうまくリンクできるよう考えてもらいたい。</p>
会長	<p>◎今の29頁の中で、今の趣旨を反映させ、表現を変えたほうがいいところはあるか。</p>
事務局	<p>●福祉有償運送サービスは、公的機関の中で利用者を指定した中で運用されているもので、誰が乗ってもいいというものではない。その中で、町の移動手段として重要な位置づけとして社会福祉協議会で運営していただいている。もちろん今後も継続していくことは本当に大事だと思っている。</p>
委員	<p>○外出支援を促進しますではなく、具体的に表現を変えてもらいたい。</p>
委員	<p>○時代に即した形で見直しをしていくということがどこかに入ってくればいい。例えば表現としては、高齢者という言葉を使っているが、世の中が変わってきているというのが実態としてあると思う。近所の独居高齢者はバスで買物に行くにも苦労している。オンデマンドバスもあるが、PRが足りないのか登録していない。もう一つは福祉タクシーがあるが、利用しにくいようで、いつもバスを利用している。高齢者世帯、独居世帯が増えているので、町の支援をPRしてもらいたい。</p>
会長	<p>◎それはそういう形で反映をしていただければと思う。</p>
委員	<p>○高齢者や障害者と書いてあるが、対象は全ての高齢者ではなく要支援や要介護である。それらを含めてうちの協議会では多く含んでいるが、高齢者という言葉は福祉有償に関しては表現を考えたほうがいいのではないか。</p>
事務局	<p>●福祉有償運送は要支援の方が登録されているというのが本来の姿で、ご指摘のとおりかと思う。町の福祉有償、デマンド、福祉サービスが伝わっていないという部分も確かに指摘いただいているので、改めてしっかり伝えるのは大事だと思う。表現は検討させていただきたい。</p>
委員	<p>○5-2交流を創りだすまちづくりについて、農業に関することも入れることはできないか。里都まちカフェもできたので、連動させていくべきだと思う。</p>
事務局	<p>●基本的には前期計画を踏襲し、修正していくことを考えているが、確かに農業も一つの産業だし、観光の位置づけにもなるということも承知している。全体の中で同じような表現が複数出てきて</p>

	いるが、全部をシャッフルするのは難しいので、その表現は検討したい。
委員	○定住を一つのテーマにした場合、農業で食べられれば定住する。
委員	○農業委員会の立場では、30頁の持続可能な農業の育成、この文面は問題ないと思う。あえて言えばきれいすぎて、これがまさに目標だ。これをどうやっていくかが問題だ。後継者や荒廃農地の問題は数年前の農業とは変わってしまっている。
委員	○販売するところがあった場合はどうか。
委員	○農家の人は努力しているし、新規農業者も一生懸命やっている。でも農業は難しい。元々中井が農業を主体に発展してきた町だから寂しい。
会長	◎中井町の野菜や資源を町内でPRしても意味がないので、それを丸の内や横浜に持って行ってPRするとか、交流人口を増やし、定住につなげるためにも、中井町の魅力を外に向けてPRすることが必要である。
委員	○商工会で取組んでいる。
委員	○結構中井町の野菜は販売されているが、中井という名称が見えないのもっと出せばいい。
委員	○中井産という名前を使っても売れない。
会長	◎例えばブランド化するというのとは一つ戦略としてある。
委員	○ただ、中井はいろいろなものが豊富にとれるが、これといって特産品がない。農業で食べていけるなら、誰も勤めには行かない。
委員	○そういうモデルケースをつくれればいい。
委員	○今までは東京から70キロ圏の都市近郊の農地そのものに資産価値があったので、荒れていても持っていたほうが良いという考えだった。ここへきて現実、農地は1反20万円と資産価値が落ちている。そんな時代だ。
事務局	●実施についてはいろいろな難しさもあるので、そこは実施計画の中での課題ということで、表現はこういう形でさせていただきたい。
委員	○30頁の5-1-1-1、農地の保全、有効利用で、有害鳥獣被害対策への支援が書かれている。有害鳥獣対策の補助金は大変ありがたいが、藤沢はイノシシが増えるばかりで一向に減らない。私が活動を始めたきっかけは自分の野菜を守るためだが、今は庭にイノシシが出るので人的被害が恐ろしい。人的被害が出る前に、猟友会等の組織も将来にわたって強化していくような方策を持ってもらいたい。猟友会も高齢化しているので、人材育成に対する支援もしてほしい。今のままでは被害が増えると心配をしている。
会長	◎今の指摘は3頁の1-2-1の里山保全と直結してくる。住宅街にイノシシが出る話と里山の荒廃というのはつながってくるので、全体の話からすると、例えば有害鳥獣の問題、5-1-1-1は矢印か何かで1-2-1-3につながるような、連携する事業と事業を結びつけて、縦割りのイメージから横に広がりを見せるようにすると、この総合計画も機能的になっていくと感じた。子育てと教育、福祉と医療等つながる部分が必ずあるので、イメージが湧くように工夫してもらえるといいと感じた。次に、第6章、第7章、35頁から最後まで。
委員	○43頁の行財政運営で、組織体制の見直し、職員の能力、資質の向上とあるが、縦割りではなく、一つの組織を大きくして横との連携を図り、小さい町だからできることがたくさんあると思う。国や県、あるいは事務事業も移行しているので大変だが、併せて、質の高い行政サービスという言葉でなく、簡単に言えば町民に親切な優しく分かりやすい行政サービスを心掛けてもらいたい、これが町民の考えだと思う。また、46頁に広域連携とあるが、広域行政を進める中で具体的にものになったものがない。県や国に要望しても、最後は行政の枠組みで、町民の利便性はほとんど聞いてくれない。そこは今後の課題でもあるが、事務事業が町村にもたくさん下りてくる中、職員だけではそれを全部完結できないので、事務は連携してやっていかなくてはいけないというこ

	とをより深く書いてほしい。
事務局	●広域行政が今後大事になってくるのはそのとおりだと思うが、広域連携の中で中井町だけの意向というわけにもいかない。ただ、中井町は行政区域だけではなく、生活圏も含めた広域で事業展開をしている。効果が出ていない施策については精査する必要はもちろんあると思う。人材育成は大事な部分というのを含めて資質の向上という書き方をさせていただいているので、意見を参考に検討していきたい。
会長	◎総合計画と、その次のアクションプランで書く文章では違うので、総合計画は抽象的、総花的な言い方になってしまうが、少し工夫してもらいたい。
委員	○全体的な印象として、全てお互いにリンクし合っている内容だと思うが、各項目が単発の事業のように感じられるので、できれば関連性を持たせたような書き方をしてもらいたい。単発的な書き方ではなく、総合的な書き方があっていいという印象を受けた。
事務局	●基本的には前期を受けて分野別の並びでやっているのですが、同じ内容が重複しているようなところも実際あり、どちらかに仕分けはできないとか、一体的に絡んでいるような事業はあるので、意見として承りたい。
委員	○平成4年に自治法が改正になり、総合計画はつくってもつくらなくてもよくなっている。今回は後期だからこれでいいと思うが、第7次では町の将来の在り方の基本構想だけに絞り、あとは個別の分野の計画をつくって実施していくという姿になっていくと思う。
事務局	●おっしゃるとおり、第六次総合計画後期基本計画に関しては前期基本計画を受けての計画という位置づけなので、同じような形で企画をした中で検証して今後5年間をつくっていく。第七次は先の話になるが、考え方としては今お話のような方向で基本的な町の方向性を示していく。個別計画はたくさんあり、国からも個別計画の策定を求められている。今回の後期基本計画についても個別計画の内容と整合を図った中での表現という形になる。
委員	○40頁、7-1-2の地域コミュニティの活性化に書いてあるとおり、外国人や新しい方が来られている。中井町は自治会をベースに活動しているが、これに入らない人は孤立してしまう。開成町は少子化とは無縁で子供が増えているが、地域の中で活動すればいいという発想で子ども会自体がなくなった。地域コミュニティという書き方は、あくまでも自治会ベースを意識していると感じるが、地域ではなくスポーツや趣味の活動を通してコミュニティをつくろうという方向も出したほうがいいのではないか。
事務局	●コミュニティは今までは自治会という基礎の中で町もいろいろな展開をしてきたが、ありようについては今おっしゃられたようなところも地域コミュニティの一つだと思っている。子ども会活動が縮小しているという話も聞いている。自治会の中で一体的にやるのが子ども会の本来に姿ではないかというところもある。自治会というのがメインと思われるのであれば、別のコミュニティについても地域コミュニティの活性化という表現にできたらいいかなと思う。
会長	◎教科書的なことを言うと、コミュニティという概念には地域コミュニティとテーマコミュニティがある。テーマ型のほうは今おっしゃったような野球サークルや趣味のテーマで集まってくるもの、地域型コミュニティは自治会、町内会、消防団のような地域に根差したものを指す。この書き方は、自治会等の地域型コミュニティとその他コミュニティの2つに分け、地域コミュニティが自治会だけだというイメージを持たせないような表現を工夫する必要がある。
事務局	●7-1-2のところで、様々な地域団体の組織の活性化、ある意味そこは意識させていた書き方だが、その辺の表現が弱いということであれば。もちろん自治会だけではないという認識は町としても持っている。
委員	○確かにこの表現は自治会云々と書いてあるが、高齢化が進んでいる中、特に中村地区では自治会の脱退がここ数年かなり出てきている。特に中村は新住民と旧住民が慣れていない部分があり、

	<p>役員を頼むと脱退してしまう。もう一つ大きな要素として、五所八幡宮には自治会費の約半分がかかっている。昔からの人はご先祖が守ってきたのだから仕方がないと、半分不満でありながら半分納得しているが、新しい人は、自治会に入ったらなぜ氏子に入らなければいけないのか納得できない。総会の中で発言するかというと発言できず、古くからいる人の顔色を見ながらやっている。もう一つは、高齢化が進んで独居になってきた。体の具合もよくない。私の家の隣人は2日に1回人工透析をするため自治会をやめたが、そういう人が多い。また、外国人、アパートの住人、高齢者世帯で引っ越してきた人は煩わしさが先に立ち、自治会に入らない。それがこれからの大きな課題だと思う。次の5年間ではさらにこれが進んでくるだろう。大久保も会員数が減っているの、今年から会費を上げている。それが実態として起きているので、どこかにそういう表現が必要ではないか。一方、自治会に入らない人のサービスはどうなるのか。広報は来ないが、ごみカレンダーだけは配られる。それさえあれば町が何をしても関係ないということが実態としてあるので、自治会活動支援の反面、裏にはそういう課題があるという記載を検討していただきたい。</p>
委員	○言っていることはわかるが表現の仕方が難しい。
委員	○うちのほうは二十四、五軒のうち7軒ほど自治会に入っていない。年齢は40代、50代なので、年寄りだからではなく、若くても入らない。子ども会があっても入れない。もう少し入りやすいよう、役所のほうで戸別訪問のような活動をしてほしい。
事務局	●自治会の未加入者世帯の増加と役員のなり手不足については課題の中にも記載している。また、7-1-2の中で、自治会の状況を把握するというのも大事なことで、どういう課題があるのかをヒアリングさせていただくことを町としても考えている。表現という部分では難しいが、実態を把握して対応していきたい。
委員	○総合計画云々は、自治会活動含めて仕組みづくりというのが一番大事ではないか。ここ30年で一変してしまった。特別チームをつくって、自治会の在り方等の研究、また有識者、自治会の会長や役員と、いろいろな角度から時間をかけて検討していくべきだ。
委員	○一番苦労しているのは自治会長だ。新しい役員を決めるだけでも相当苦労している。それが自治会組織の実態。それを総合計画にどう入れていくかは難しい。
会長	◎他自治体でごみ袋の有料化をして、自治会加入者と未加入者の料金の差別化を図り、結果的には自治会費がトントンになるぐらいというのを聞いたことがある。協議事項(2)については以上。
事務局	<p>(3) その他</p> <p>・資料3に基づき説明</p>
会長	<p>【意見】</p> <p>◎スケジュールと組織体制について意見はあるか。本日の議題は以上だが、全体を通して何か発言はあるか。</p>
委員	○コロナウイルスの予防のために次回からは委員へ検温をしたほうがいいのではないか。
会長	◎きょうは換気で配慮をしたが、次回は考える。
事務局	●承知した。
事務局	<p>4 その他</p> <p>●次回の総合計画審議会の開催予定を提示</p>
	<p>5 閉会</p>

事務局

●長時間にわたり御議論ありがとうございました。御意見、御提案を反映できるよう一生懸命検討し、次回の審議会で御説明させていただきたい。本日はありがとうございました。